つくば教会だより 2019 年 12 月号

編集:カトリックつくば教会　〒305-0834 茨城県つくば市手代木 261-6
TEL 029-836-1723　FAX 029-836-4136
ホームページ http://www1.accsnet.ne.jp/~mikokoro/

「教皇フランシスコの訪日」

この度の教皇フランシスコの 4日間にわたる訪日は、38年前のヨハネ・パウロ 2世教皇に次ぐ 2度目の教皇訪日となりました。11 月 25 日の東京ドームでのミサには、つくばからも二十名を超える方々が参加されました。私もユウチュウブで、2時間以上見ておりました。

参加された方は、教皇を中心とする 5万5千人の祈りが、うねりのようにこだまして、凄い迫力を感じたとおっしゃっておられました。参加できた方々は、一生忘れられない貴重な体験をなされたことでしょう。

教皇フランシスコは、短い滞在期間に実に多くの場所と人々を訪れ、少し足を引きずりながらも精力的に動かれ、びっくりいたしました。

新聞やテレビも訪日以前から何日間にも亘って良く報道してくれましたし、キリスト教に無関係な方々にとっても、悲しいニュースが多い中、清涼剤のように感じて下さったのではないかと思います。

これを機会に、信仰をより深く生きる恵みを祈りたいと思います。

つくば教会担当司祭　山田 宣明

****

■信徒会より

◇ミサの中止について

神父様のご都合により、12 月 25 日（水）19 時及び 27 日（金）10 時のミサは中止になりますので、ご確認ください。

◇待降節黙想会について

今年は 12 月 7 日（土）、8 日（日）に、月刊誌「福音宣教」の編集長をしておられた鈴木隆様を講師にお迎えして待降節黙想会が行われます。スケジュールの詳細は本紙 4 ページの行事予定表をご覧ください。なお、第 3 講話のあと、鈴木講師を交えた昼食会（会費 500 円/名）を行いますので、希望者は掲示板に名前をご記入ください。

◇聖心会ローマ本部総長のつくば教会ご訪問について

聖心会ローマ本部の Alberto Toutin（アルベルト・トータン）総長が 11 月 10 日（日）につくば教会を訪問されました。ミサ終了後、総長様の歓迎会と青年会の送別会との合同パーティーを行いました（次頁に写真）。

パーティーには若い信徒をはじめ多くの信徒が参加し、アルベルト総長様も青年会の皆さんと一緒にとても楽しんでおられました。パーティーのために一品持ち寄りにご協力いただいた方々、パーティーの準備・後片付けにご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

◇「信徒会次期会長の推薦」と「信徒会活動におけるお手伝い」に関するアンケート

11 月 10 日（日）に最後のアンケートを回収致しました。最終的に次期会長推薦票が 29 通、信徒会活動に関するアンケートが 28 通となりました。

今後、これらのアンケートを参考に、神父様および信徒会役員で協議して 2020 年度会長および信徒会役員を決めていくことになります。アンケート提出にご協力いただいた信徒の皆様のご協力に感謝申し上げます。

◇クリスマスミサについて

12 月 24 日（火）は 19 時から日本語クリスマスミサが行われます。ミサ後に子供たちにお菓子のプレゼントがあります。

12 月 25 日（水）は 10 時半からクリスマス日中のミサが行われます。ミサ後には子供たちにお菓子のプレゼントを配った後、クリスマスのお祝いと神父様の誕生祝いを兼ねて、一品持ち寄りのパーティーを行います。

多くの信徒の皆さんと喜びを分かち合いたいと思いますので、奮ってご参加ください。

■各部会より

◇ブライアン助祭の司祭叙階式

11 月 4 日（月、休日）11 時から水戸京成ホテルにおいて、ミサおよびブライアン助祭の司祭叙階式が行われ、13 時からフィリピンから来日されたブライアン司祭の御兄弟も参加された祝賀会がありました。

叙階式ミサにはつくば教会から日本人 10 名、フィリピン人 15 名が参加し、アルベルト総長、山野内司教をはじめ総勢 300 名を超える司祭・信徒が集まって久しぶりの聖心会司祭誕生をお祝いしました。

なお、ブライアン神父は来年 2 月 2 日（日）につくば教会を訪問される予定になっています。

（使徒職協議会）

◇七五三の祝福について

11 月 10 日（日）、17 日（日）および 24 日（日）の日本語ミサ中において、計 5 名のお子様に七五三の祝福が行われました（次頁に写真）。　（司牧部）

◇「中・高生あつまれ～」について

来年のサマースクールの準備を始めるために、中・高生に集まってもらい、2020 年 1 月 11 日（土）10 時から 15 時まで友部修道院で話し合いをすることになりました。詳細はポスターを掲示板をご覧ください。

参加してくださる中・高生および青年は、12 月 22 日までに担当者まで連絡ください。

（日曜学校担当：市野）

◇聖マルグリット・ブールジョワに関する特別寄稿について

聖マルグリットは、つくば教会で「若い人との分かち合い」、「聖書で祈る集い」などで活躍していただいている 3 名のシスターが所属しておられるコングレガシオン・ド・ノートルダム・ド・モンレアル修道会の創始者です。

1620 年 4 月 17 日生れの聖マルグリットは来年で生誕 400 周年を迎えるのを機に、シスター高橋が特別寄稿してくださいました。12 月号と次回の 2 回に分けて掲載しますので、お読みください。　（広報部）

■信徒動静

◇帰天　フランシスカ東（あずま）和子さんんが、11 月 19 日帰天されました。東 和子さんの永遠の安らぎと残されたご家族の平安と慰みをお祈りください。

七五三の祝福　おめでとうございます！！

笑顔一杯の送別会、帰国しても頑張って！　総長様（写真右端）も加わって“南中ソーラン踊り”　2019.11.10

2019 年 12 月　典礼当番表

	12/1	12/8	12/15	12/22	12/29
侍　　者	酒井 エリ 新田 百恵	市川 メリー 市川アキヒロ	神保 諒人 神保 愛理	有田 華 有田 亮	神保 諒人 神保 愛理
聖体奉仕者	杉 明子	歳森 敦	有田 圭介	櫻井 みや子	石澤 通
案　内　係	中島 恵	Sr.都成	石澤 里子	浜口 景子	吉武 京子
先　　唱	小原 謙二	桑原 直己	大門 建夫	森 彰一郎	杉 正人
オルガン	運上 厚子	滝田 あや	小山 光	林 采希	運上 厚子

2019 年クリスマス 及び 2020 年元旦　典礼当番表

	12/24(火)19:00	12/25 (水)10:30	1/1 (水)10:30
侍　　者	櫻井 みや子 小川 千尋	櫻井 みや子 小川 千尋	酒井 エリ
聖体奉仕者	桑原 直己 岩堀 隆子	石澤 通	浜口 景子
案　内　係	市野 百合子 松田 真理奈	浜口 景子	石澤 里子
先　　唱	櫻井 隆	大門 建夫	石澤 通
オルガン	田中 淳子	滝田 あや	未定

行事予定表　　2019 年 12 月

		ミサ・典礼		学校・会議・講座・勉強会	
日付	曜日	時刻	行事内容	時刻	行事内容
1	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ（「宣教地召命促進の日」献金）	ミサ後	教会清掃（全員） クリスマス飾りつけ
4	水	19:00	ミサ		
6	金	10:00	初金ミサ	10:45	聖書に親しむ会（午前の部）
7	土	18:00	ミサ　待降節黙想会 指導　鈴木隆様 ミサ中　第１講話		
8	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ　待降節黙想会 ミサ中　第２講話 ミサ後　第３講話	9:00 10:15 講話後	手話サークル 日曜学校 昼食会
11	水	19:00	ミサ		
12	木			10:30 19:00	聖書講座（シスター景山） 聖書に親しむ会（午後の部）
13	金	10:00	ミサ		
14	土	18:00	ミサ		
15	日	8:00 10:30 15:00	英語ミサ ミサ(「イエスの食卓」献金) スペイン語ミサ	ミサ後 11:30	聖歌隊練習 定例役員会
18	水	19:00	ミサ		
20	金	10:00	ミサ	10:45	聖書に親しむ会（午前の部）
21	土	18:00	ミサ		
22	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ（洗礼式）	9:00 9:00 ミサ後	手話サークル 教会清掃（国際部） 聖歌隊練習
24	火	19:00 22:30	クリスマス夜半のミサ 英語クリスマス夜半ミサ	19:00	子供達にお菓子プレゼント
25	水	10:30	クリスマス日中のミサ	11:30	クリスマスパーティー 子供達にお菓子プレゼント
28	土	18:00	ミサ	13:30	教会だより編集会議
29	日	8:00 10:30	英語ミサ ミサ	ミサ後	教会清掃（全員）
31	火	22:30	英語ミサ		
1/1	水	10:30	新年のミサ（新成人の祝福）		

12/25(水）19:00、12/27（金）10:00 のミサはありません。

† 1月の予定　・1/1（元旦)、1/5（日)、1/12（日）新成人の祝福
・1/5（日）クリスマス飾りの取り外し
・1/26（日）2020 年度信徒総会

✧ 毎日曜日 9:15～10:15　シスターによる若い人との分かち合い（ザビエルホール）
✧ 毎火曜日 10:30～11:30　シスターによる聖書で祈る集い（ザビエルホール）
✧ 毎金曜日 9:00～10:00　聖時間（12/28 はありません）

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 創立者生誕 400 周年特別寄稿（その１）

「聖マルグリット・ブールジョワ　聖母との出逢い・神の望み」

1. つくば教会に所属している私たちシスターズは、1698 年にローマ教皇様から認可をいただいた、コングレガシオン・ド・ノートルダム・ド・モンレアル修道会という長い名称をもった女子修道会の会員です。

今から 400 年前の 1620 年 4 月 17 日の聖金曜日、フランスのトロワという町で、マルグリット・ブールジョワ（以下マルグリット）は、ローソク製造業者アブラハム・ブールジョワとギュイメット・ガルニエの 7 番目（13 人）の子として誕生しました。当時の彼女の周辺社会では、家族全員が積極的に経済的な役割を担っていたので、少女たちも手仕事に必要な技術や読み書き計算などを学びました。加えてマルグリットの家には聖人伝などの書物もあったので、そこから自然に神学や教会史に触れることもできたのでしょう。また、父親との一つのエピソードは、彼女の心に『神の愛』の本質を体験させるものとなりました。「私は父に贈り物をしたことがあります。でも、それはありふれた、取るに足りないものでしたし、見る人と父の笑いを誘うばかりでした。けれども父は、私が心を込めて贈ったことを知ってそれを身につけ、だれかれとなく見せておりました。」そのことから「神は愛を込めて行う小さな徳を喜ばれ、愛が深ければ深いほど、その価値を高めてくださいます。」と言っています。マルグリットが生涯を通して、小さく貧しく謙遜に神を信頼し愛し続けたこと、そして地に足をつけた堅実な生き方をしたことは、この家族の中で培われてきたものでもありました。

2． 1640 年 10 月 7 日、20 歳になったマルグリットは、いつものように近くのドミニコ会修道院で行なわれるロザリオ行列に参加したのですが、その行列は長くノートルダム・オ・ノナン・ベネディクト修道院まで続きました。その玄関前で彼女の人生を大きく変える出来事に遭遇するのです。「見慣れた玄関のマリア像が突然美しく輝いて見えた…私は感動のあまりわれを忘れ、もはや前の私ではなくなってしまいました。」それまでのマルグリットは、オシャレが大好きで女友達にもてはやされているような普通の少女でしたが、この日を境に、神に生涯を捧げたいと思うようになりました。それまで誘われても見向きもしなかった、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会（フランスのトロワにあり、マルグリットが創立した会ではない）の外部団体に所属し、修道院内での生活に限定される修道女たちに代わって、貧しい、あるいは遠くの村々の子どもたちへの宣教（教育）に出かけて行きました。マルグリットが教えていたのは、神様のことと読み書き計算で、子どもたちの未来の生活を支えるものでした。

3． やがてマルグリットは修道生活への強い促しを感じ、カルメル会と別の会への入会希望を出しましたが、どちらも断られてしまいました。彼女は強い失望感を味わったかもしれませんが、現代の私たちは、そこに思いもよらない神の計画を見ることができます。神はマルグリットに、囲いのない新しい修道生活を望まれていたのです。『生活費を稼ぐのに必要な知識と技術を伝授することの重要性』を説いていた外部コングレガシオンの指導者ピエール・フーリエ神父と共に奉仕した 13 年間も、その後彼女が新しい大陸カナダで始めることになる、17 世紀の画期的な女子修道会の礎となりました。

４．同じ頃マルグリットには、彼女に対する神の望みを一緒に探すための霊的同伴者として、カルメル会のジャンドレ神父がいました。聖霊の促しを良く聴き取った彼は、マルグリットに新しい女子修道会の在り方を提案しました。「ある日、神父は次のことを教えてくださいました。主は昇天されるにあたり、教会に従い仕える女性に、三つの生活様式を残された。そのひとつは聖女マグダレナの生活で、カルメル会その他、禁域制のある修道女が送る生活様式。もうひとつは聖女マルタの生活で、人々の世話をする禁域制のある修道女の生活様式である。しかし、聖母の旅人としてのご生活（ルカ福音１章）を送る者はまだいない。ヴェールやゲンプが無くても真の修道女でありうる、と。」マルグリットは、このことを聞いてハッとさせられたに違いありません。旅人としての聖母、そこには胎内にイエスを宿し、人々の必要に応えてどこにでも出向く、イエスの最初の弟子としての母マリアの姿があったからです。これこそ彼女が求めていた生き方だったのです。その後マルグリットは、ジャンドレ神父の勧めで新しい修道生活様式を試みましたが、うまくは行きませんでした。

５．マルグリットが 30 歳を過ぎた時、神の計画は大きく動きだしました。新大陸発見後のヨーロッパ特にカトリック教会では、信徒による刷新運動（初代教会から霊感を受けた宣教する教会）が行われ、その具現化として新大陸の先住民たちへの宣教に目が向けられていました。マルグリットの周辺にはすでに、熱心な信徒や神父によるモンレアル・プロジェクト（現カナダモントリオール）が立ち上げられ、若い兵士ポール・ド・ショムデ・ド・メゾンヌーヴ氏（以下メゾンヌーヴ）と、この遠征隊の会計と看護を任された女性ジャンヌ・マンスが派遣されていました。1652 年メゾンヌーヴ氏は、新たな兵士と将来現地で育つ子どもたちのために必要となる教師を求めて一時帰国していました。彼の姉シスタールイーズは、コングレガシオンの修道女をそこに送りたいと願っていましたが、先住民との戦いが続く現地の状況は困難を極め、修道女が生活できるようなところではありませんでした。そこで彼女は、外部会員として 400 名もの会員を指導し、子どもたちに真の自由への教育ができるマルグリットに白羽の矢を立てたのです。このときのマルグリットの驚きはいかばかりだったでしょか。賢明な彼女は、この呼びかけが神からのものであるのかどうかを知るために、霊的同伴者ジャンドレ師に相談し、こんな会話が交わされました。（ジャンドレ神父）「神はトロワでのぞまれなかったことをモンレアルでよみされるかもしれない」（マルグリット）「私ひとりでは修道会になりません」（ジャンドレ神父）「私の天使とあなたの天使とあなたとで三人になるでしょう」。彼女はそれでも祈り続け、ついには聖母から確信に満ちたことばをいただきました。「ある朝、よく目が覚めていた時、白衣の貴婦人がこられ、はっきりと仰せになりました。『お行きなさい。私はあなたを見捨てません』と。この方は聖母であると分かりました。彼女の手記からは、今後直面するであろう困難や危険が、旅をためらう理由として述べられている箇所はどこにも見つかりません。しかし、女性がひとり旅をするなど考えられない時代、乗船するナントの町に到着するまでさえ、数々の恐怖に晒されました。

６．マルグリットの乗った船は、一度浸水のため港に引き返しましたが、7 月 20 日数人の女性と 100 人の兵士を乗せてカナダに向かいました。大西洋を航海する船中で彼女は、孤児の少女の世話をしながら、蔓延した病気の人々の看護や死の準備に奔走していました。9 月 22 日船はカナダのケベックの港にようやくたどり着きました。兵士たちは船中で何を感じ、思ったのか分かりませんが、着後マルグリットはこう話しています。「生存者たちは皆、まるで洗濯された衣類のように一変した」と。

（次号へ続く）